

新春 特大号

たいとう

東京土建一般労働組合
台東支部
〒110-0012 台東区竜泉1-15-2
Tel:03-3876-1966 Fax:03-3875-5965
Mail:taitou@tokyo-doken.or.jp
HP:http://doken-taito.jp
編集 遠藤 顕寛



子年の原点回帰

新年明けましておめでとうございます。

皆様にとって昨年より良い年になりますように、心からお祈り申し上げます。

組合員の皆様、またご家族様に至っては、日頃より組合活動にご理解、ご協力頂き、誠に有難うございます。

本年は、オリンピックが開催されます。一国民として、何事もなく、無事に成功することを願っています。しかし、この国民的、世界的行事が終わったあと、景気が悪くなることを心配している国民が多数いることも事実です。

昨年の組織拡大運動では、春・秋の拡大月間で皆様の奮闘もむなしく、両拡大月間共に達成には至りませんでした。当然ながら、組織人員を大幅に減らしてしまいました。

今年が一番重要な運動は、組織強化です。組織の基盤である「人」を増やし、組織強化に繋げ、まずは1600人以上の回復、ゆくゆくは2000人支部を目指します。

そのためには、建設労働者の処遇改善の課題の一つ、適正賃金の確保が不可欠です。

具体的には1日8時間労働、週40時間の労働で月額50万円、年収600万円以上の賃金が必要で、これらを目指していくために、昨年4月から「働き方関連法」が施行された。「建設キャリアアップシステム」の本格的運用も始まりました。この2つを連動させ、建設業界を魅力ある労働環境にしていくために、喫緊の課題である「人手不足解消」「若年層の定着」「後継者育成」等に切り込む事が、東京土建の役目であると考えています。

この問題は、東京土建全体、強いていうならば組合員の皆さん一人一人が、課題の意識を持って取り組まなければならぬことです。皆さんが日頃から感じていることや小さな問題を共有し、解決に向けたヒントを探しましょう。そのために組合があります。

最後になりましたが、仲間の仕事と暮らしを守り、貧困と格差をなくし、台東支部の更なる発展を目標とし、一致団結して頑張りましょう。

台東支部執行委員長
遠藤 秀明



五重塔

今年には十二支で一番目の子(ネズミ)年だが、何故に一番目か。神様が動物たちに言った。「元日の朝、私のところへ来なさい。最初に着いたものから12番目のものを、一年交代でその年の大将にしてあげよう」

動物たちは、我こそが一番と張り切る。しかし、猫は話を聞き漏らし、ネズミに問うたのだが、わざと一日遅れの日を教えられ、その場を後にした。

元日となり足の遅い牛は、誰よりも早く、夜明け前に出発、見ていたネズミは牛の背にそっと乗り、牛は気づかず、神様の家に到着。まだ誰も来ておらず、門はしまったまま。我こそが一番と牛は喜び開くの待った。

夜が明けて門が開くと牛から飛び降りたネズミが一番となり、残念な事に牛は二番。後は寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥の順で到着。

一日遅れの猫は番外となる。以来、ネズミを恨み、追いかける事に。

(E)

今年も魅せます 女性のチカラ

12月15日(日)なかのZEROホールにて東京母親大会が開催されました。

その中で、記念講演として角田由紀子さん(弁護士)の貴重な話を聞くことができました。講演のタイトルは「私たちは幸せに暮らしたいージェンダー平等の世界をー」です。

「ジェンダー」とは、一定の背景において女性または男性として期待され、許容され評価されることを決定することを指す事です。しかし、ほとんどの広範囲の社会では女性と男性の間に違いや不平等があります。現実には、女性が家事、育児だけをしていただけでは、生活が困窮してしまい、時には差別をうけながらも、社会生活を営んでいかなければなりません。最近では「育メンパ」と呼称される、育児や家事に積極的な

男性も多く見受けられます。

角田由紀子さんは「日本の男女平等度は、149か国中110位(2018年時点)と立ち遅れ、自民党政権のもとで、自立を脅かす低賃金政策や社会保険削減に加えて、今なお根強く残る女性差別や慣習が温存されている」と発言されました。

また「私が弁護士として支えている方々の中には、ジェンダーバッシングを受け、人間の尊厳をかけて立ち上りたたかっている方もいる。それには、社会的支援や法改正が必要であるが、日弁連、伝統的な弁護士、女性学者が結託しているというのが残念」とも話していました。

今でこそ、世間一般の会話の中話されるようになった「性差別」は、まだまだこれから多くの社会的支援

伝統ある琉球舞踊



子どもと寄り添う

第3分科会は東京総合教育センターの児玉洋介さんを講師に「子どもに寄り添うー学校教育・不登校ひきこもりを考えるー」をテーマで行いました。

3名のパネラーから報告がありパネルディスカッション形式で進めました。不登校約16万人には驚きました。

4月5日、国交相が沖縄県知事による埋め立て承認撤回を取り消す採択を。7月17日、沖縄県が国を提訴(地方自治法)。8月7日、沖縄県が国を提訴(行政不服審査法)。という運びになりました。

安倍内閣の下で「人材の育成」と唱えているが、国連の「子どもの権利委員会」からは社会の競争主義的な性格により、子どもの発達に害され、ストレスフルな学校環境から子どもを開放するようにと勧告されており、とても生きづらく、それらの歪みが生じている。不登校やひきこもりの原因になってきている。不登校のお子さんが「ぼくが学校に戻れないのは、母さんがいつも大丈夫だよと言って、信じてくれたから」孤獨な母親にも地域のかた

地域との関係
学校は楽しいところになっていないのでしょか。教育基本法改悪、新学習指導要領により、競争主義に拍車がかかり、教職員も多忙のため、真摯に子どもと向き合う時間が少なくなっている。不登校の理由が「子どもたちが何気なく発する言葉に耳を傾けよう」という当たり前ではありませんが、実行しなければならぬ言葉の頂上を感ずりました。

最後に「子どもたちが何気なく発する言葉に耳を傾けよう」という当たり前ではありませんが、実行しなければならぬ言葉の頂上を感ずりました。

新藤間 洋子

全国からの訴え
継続することを明言していただきました。また、抗議のFAXや手紙を送り、スタンディングやデモに参加し、本土の市町村議員に働きかけるなど、精力的に根強く行動をしますと力強く宣言されました。日本の民主主義はどこに行つたのだろうか。私は感じました。

後世に平和を
全体会のオープニングで「ぞうれつしゃ合唱団」は「戦争は二度と起きない」の強い願いを込めての合唱でした。中には2歳の子も団員となり、大人と総勢40名程で結成されています。私自身の孫の姿と重ね合わせて聴き入ってしまい、子供たちに平和で豊かな未来を手渡せますようにと恒久の平和への思いが募りました。

上野浅草橋分会
本山 美知子

東京母親大会 一分科会

沖縄とともに

東京母親大会第1分科会は「県民投票の会」代表元山仁士郎さんを講師に「沖縄とともに」

根深い問題

なぜ沖縄は、県民投票をやらざるを得なかったのか、沖縄を「連帯する」とは何か、基地は軍事的に沖縄ではなくても良いのに、政治的に仕方ないのか等の問いが残ります。

この会は、基地問題の根底にある、特定の地域や人々があるものによって被害を受けて負担が集中しているにも関わ

世論調査

世論調査では、読売新聞が賛成36%、反対47%。共同通信が「尊重すべきだ68・7%」

「尊重する必要がない

後世に平和を

全体会のオープニングで「ぞうれつしゃ合唱団」は「戦争は二度と起きない」の強い願いを込めての合唱でした。中には2歳の子も団員となり、大人と総勢40名程で結成されています。私自身の孫の姿と重ね合わせて聴き入ってしまい、子供たちに平和で豊かな未来を手渡せますようにと恒久の平和への思いが募りました。

上野浅草橋分会
本山 美知子

アスベスト問題 ミニ歴史

1970年代	アメリカでは中皮腫被害者が年間6000人亡くなっていた
1973年	日本政府は鉱物学者と肺がん研究者を送る。クボタの社員も同行
1976年	日本政府は労働省職員をアメリカに調査派遣させる。
1980年代	アメリカでは石綿の使用禁止
1987年	省庁・官舎に石綿不使用方針
1988年	日本でも第一次石綿パニック
1992年	旧社会党が「石綿規制法」の成立を目指す
1993年	石綿協会が「政府は石綿問題をおおげさにデッチ上げ」（協会内部機関紙にて）
1994年	業界と連合が「石綿規制法」法案に反対 石綿協会「石綿の健康被害はウソ八百」と機関紙で攻撃
2003年5月	井上美代参議員（共産）「石綿曝露による健康被害への対策に関する質問趣意書」を国会に提出。秘書の田村智子さんが調査研究し質問書作りに奮闘 ①石綿の全面禁止措置について ②今後の石綿曝露防止施策について ③業務上の石綿曝露に関する労災認定の現状について ④疾病の早期発見のための健康診断について ⑤健康管理手帳の交付について ⑥労災認定の在り方について ⑦個人経営の建設業者の救済措置について
2005年4月	石綿協会が機関紙の発行を停止
同年6月29日	クボタによるアスベスト被害者の公表「クボタショック」
同年10月	石綿の製造、輸入、使用が全面的に禁止
同年10月3日	『NHK首都圏ネットワーク～シリーズアスベスト問題～』放映開始
2006年3月	NHK特集で「アスベスト被害の実態」放映
2007年3月	すきまだらけの「石綿による健康被害の救済に関する法律」（新法）制定

アスベスト訴訟を振り返る

先月発行の第579号「たいとう」の九州建設アスベスト訴訟に関する記事に関心が寄せられたため、今回は「アスベスト訴訟を振り返る」と題し、年表を掲載しました。今なお続くアスベスト訴訟。その理解に少しでもお役立てできたら教育宣伝部としても幸いです。また、神奈川第二陣の記事もありますので、是非ご確認ください。

12月6日、神奈川第二陣第5回期日行動東京高裁前集会に参加して来ました。アスベスト訴訟関連の行動はこれから先も継続して行われると思います。むしろ増えていくのでは

真摯に訴え

前月の福岡高裁の集会でもそうでしたが、原告側の悲痛な訴えを

聞くと胸が痛みます。遺族の方々は、挨拶等されますが、言葉にできず、最終的には涙の訴えとなり「有難うございました」と言うのが精いっぱいとなるのです。このなんとも言

えない感情は、一度実際に体験した者ではないとわからないと感じます。皆さんの中で少しでも関心がありましたら、是非組合にお声かけください。共に行動、訴えかけを行っていきましょう。

2020年も、各地で建設アスベスト訴訟が行われます。また、今年も国の上告により、最高裁での係争も行われるのです。是非お待ちしております。

松が谷分会
杉本 良信

♪あの店★この店♪

上野桜木
にいいお店があるって聞き、取材を兼ねてランチに行ってきました。2019年6月にオープンした「cage & salon」上野桜木は2人のオーナー、小番真穂さんと木呂場理子さんで



経営されている、カラダとこころのいいバランス、自分を大切にす

絶品カレー！！
デザートにガトーショコラをいただきました。評判どおりのおいしさで、とても満足、満腹になりました。開店前に一緒に並んで待っていた方は、中野と渋谷から来たとのこと、その方たちは彩野菜と豚のせいろ蒸しを注文していました。次回は絶対それにしようと思

奥の方にワークショップができるテーブルがあり、3000円で借り

りられるそうです。そして、サロンの方ではメンタルケアカウン

セラーでもあるセラピストの木呂場理子（きりまき）さんがヒーリングマッサージを施術してくれました。今回は30分2980円の背面マッサージを試してみました。背中をさすってくれる手がとてもあたたかくて終りつた後、からだがつり気味になりました。ほんとうはオイルを使ったマッサージがおすす

りたままには行きたいなと思

お店の場所は寛永寺の36坊の1つである浄名院のすぐとなりです。2年前に浄明院をお参りしましたが、84000体のお地藏さんがこちらを一齐にみつめてくる感じで迫力があ

るお寺でした。お寺に行つた帰りにぜひ寄つてみてはいかが？

住所：台東区上野桜木2-9-1 TEL：03-5832-9817

松が谷分会
遠藤 知子

～お便り掲示板～

組合員さんからクイズをお寄せ頂いたのを掲載します！
皆さん是非ご回答ください！

あけましておめでとーうございます

十二支クイズ

次の問いの口にあてはまる動物を左記から

選び書き入れて下さい。

- 老□虚に吠えず
 - 老□の智
 - 稽古
 - の鳴く音はいずれも同じこと
 - に絵馬
 - を抱いて臭きを知らず
 - の口より人の口恐ろし
 - 獅子は□を搏つに全力を用う
 - の一散
 - 棲む淵は水濁れず、玉ある岸は水清し
 - は社により貴し
 - の時に晴るる雨には蓑笠を脱ぐ
- ⑩子(鼠) ⑪丑(牛) ⑫寅(虎)
⑬卯(兎) ⑭辰(竜) ⑮巳(蛇)
⑯午(馬) ⑰未(羊) ⑱申(猿)
⑲酉(鳥) ⑳戌(犬) ㉑亥(猪)

※答えは4面に

社会保障を考える 地域医療の観点から 区立台東病院統廃合の危機

12月10日、台東社会保障協議会（以後…社保協）主催で、学習講演会を開催し、東京土建の組合を含めて約50名程が参加しました。

講師は、NPO法人医療制度研究会副理事で、元外科医の本田宏氏です。今回のテーマは切迫した現状の「区立台東病院が国の病院再編・統合で存亡の危機に」を中心に、日本の社会保障制度を学ぶことのできる内容でした。

医師不足の真偽

講演は、NPO法人医療制度研究会副理事で、元外科医の本田宏氏です。今回のテーマは切迫した現状の「区立台東病院が国の病院再編・統合で存亡の危機に」を中心に、日本の社会保障制度を学ぶことのできる内容でした。

冒頭の開会挨拶で、高年齢の慢性期医療を担う拠点病院としての「老健千束」と連携しており、機能している。だからこそ、国の事情でこのようになことにはなるのとは許せることではない。私たちは反対



講演後、質問が飛び交う

高年齢の慢性期医療を担う拠点病院としての「老健千束」と連携しており、機能している。だからこそ、国の事情でこのようになことにはなるのとは許せることではない。私たちは反対

救急患者受け入れに深刻な問題（医師などの過労働）があります。また、メディアを使つて、「医療費が40兆円を超えた」と一般市民を煽っています。

医療費の内訳は、国や地方の公費負担が40%弱の16兆円で、患者の保険料と窓口負担の合計と同程度に過ぎないとし、この点も国民負担を全て加えた総医療費だけを強調するのはメディアの情報誘導だと訴えられました。

また、区議会への陳情、または請願を働きかけ、都や国に対して「地域医療構想」は地域住民に寄り添うことが大切であることだからこそ、台東病院存続の必要性と重要性を、区議会として訴えることを求めていくこと等が、会場の拍手を以って承認されました。

遠藤 顕寛

満席の会場



人勝ち状態。それが理不尽な、日本の医療費配分の実態だと言います。

これも本田先生の言う明治期の資本主義の神様とされる渋沢栄一が嘆いた、官尊民卑の官僚政治と、厳しい競争下にあったにせよ、社会貢献意識の乏しい日本の経済人の問題があると厳しく指摘していました。

守る会発足

講演終了後の質疑応答後に「台東病院を守る会」の運動を立ち上げるために、台東社保協として、広く住民・町内会等の各団体に署名を含めた呼びかけを行う事が宣言されました。

また、区議会への陳情、または請願を働きかけ、都や国に対して「地域医療構想」は地域住民に寄り添うことが大切であることだからこそ、台東病院存続の必要性と重要性を、区議会として訴えることを求めていくこと等が、会場の拍手を以って承認されました。

松が谷分会

【台東支部の組合員様へお知らせ】
新春交歓会を開催致します。
詳細は下記日程をご参照の上、
台東支部まで申込み下さい。
日時：1月18日（土）18：00～
会費：一名3500円
申込：1月10日まで



わかったかなー♪

- 三面クイズの答え
1.(11) 2.(7) 3.(6) 4.(10) 5.(9)
6.(12) 7.(3) 8.(4) 9.(2) 10.(5)
11.(1) 12.(8)



一面以外の仲間たち

12月5日、台東支部会館で開催された手芸交流会にて、新春特大号に向け、布製のネズミの置物を作りました。

まずは女性の役員である遠藤さんが代表で区内の手芸教室に通い、組合員さん向けの見本を作るべく奮闘しました。

「目が疲れる」「手が痛い」など言いつつ、テキパキ指が動いて、さすがは主婦の皆さんでした。

出来上がった作品は、ひとつとして同じものがなく、どれもなんとも愛らしい!!皆さ

技術力↑↑

「笑う門には福来るといふこと」で、先日働く女性の東京大会で「笑うヨガ」の体験をしました。ストレッチを発散するためにお腹から笑うことが大事と言うことで、笑うことで、病気も近よらないと聞きました。

今年6月に初孫が生まれ、また、その笑顔が何とも言えないくらい、幸せにしてくれます。

松が谷分会
遠藤 知子



新春企画 2019年 わたしの漢字

「笑」と新時代になって、にわかサポーターと言われそうですが「令」の字を選びました。令には清らかで美しい、おめでたい、喜ばしいという意味があるそうです。毎年のも、皆さんにも喜ばしい一年であつたということ。

新しい世代を担う皆さんには、これまでの事業を「改革」「改善」「改良」していくことを念頭に更なる発展を目指してほしいです。

清川分会
比留間 哲

杉本 郁代